

学校運営協議会 委員評価表

学校運営協議会委員評価

A すごく評価できる B まあまあ
C あまり評価できない D 評価できない

	項目	回答結果から見える成果や課題	評価
心の教育	1 基本的な生活習慣の確立	1 前年度に比べると児童のあいさつの習慣は身に付きつつあり、児童の実際の姿からも向上している様子が伺える。	
	2 豊かな人権感覚を育成する指導方法等の工夫・改善	2 教師と児童のふれあいについては、職員の評価に高まりが見られるが、児童との意識の温度差がある。	
	3 (特別の教科 道徳)における議論する道徳の充実	3 道徳の授業が充実し、児童の日常的な姿として現れ始めた。コロナ等の影響も軽減してきたため、今後は外部講師の活用等も計画的に行う。	
	4 縦割り班活動の積極的な活用、集会活動の効果的な運営	4 児童が主体となった活動を多く設定することができている。児童も実感を伴う活動になっている。その結果、児童間のコミュニケーションも良好になってきた。	
	5 積極的な生徒指導の推進	5 職員間の「報告・連絡・相談」が適切且つ迅速にできている。そのため、諸問題に対する初動の早さや組織としての動きの質が高まってきた。学級経営についても充実傾向にあるため、児童にとって自分の教室が心の居場所となっている。	
健康・安全教育	6 体力向上を図る取組の推進	6 多くの児童が外遊びを行っているが、体育科の授業はまだ運動量の確保が少なく授業改善の必要がある。	
	7 交通ルールの遵守と登下校のルールの徹底	7 危険予知学習をはじめ交通安全についての意識は高まってきた。児童が学習及び生活する環境は安全が確保されている。	
	8 早寝早起き朝ご飯の推進と食育の充実	8 早寝・早起き・朝ご飯や食育の推進については、今後も保護者と連携しながら健康な生活を送るための習慣づくりを行っていく必要がある。	
生きる力の育成	9 「熊本の学び」の推進	9 日常の授業づくりは児童の発達の段階に応じて推進することができてきた。特に、45分間の授業のゴールを共有したことにより学び方の質が高まっている。ペアなどの対話活動も活発に行われた。	
	10 外国語活動と教科との連携を図った目標の提示とコミュニケーション能力の素地・基礎の育成	10 ALTとの時間を中心に外国語に触れコミュニケーションを図ることができた。昨年度までの外国語の研究をベースにしていたが、日常的な外国語使用は減少傾向にある。	
	11 自主的な清掃活動と清掃活動の徹底	11 担任だけでなく全ての職員で清掃指導を行っている。創始の開始時刻も徹底してきた。無言清掃については学年に温度差があるため更なる共通実践を行っていく。	
	12 読書活動の推進	12 学校生活での読書活動の推進は概ね良好である。学級の目標冊数はクリアしているが、二極化現象は存在する。	
社会に開かれた学校	13 社会に開かれた教育課程	13 学校でのあいさつは習慣化が図られてきたが学校外でのあいさつはできていない。 節電・節水については、児童会を中心に呼びかけたが、まだ改善の余地は十分にある。継続指導が必要である。 下期になって朝のボランティアが計画的に実施された。 コロナ等の影響も減り、保育園や中学校、支援学校、その他の関係機関との交流や連携が充実してきた。 学校だよりやホームページは計画的に情報発信できた。保護者も学校からの教育活動の情報に関心をもっている。 ノーテレビ・ノーゲームデーは実働していない現状にある。	
その他	14 学校改革の取組	児童が主体になることを目指して、教職員の働き方の見直しや児童へ向き合う時間の確保などタイムリーな改革を実施していく。	
評価者の意見・感想			

3月21日(金)までに封筒に入れて投函をお願いします。